**尾瀬の生き物**

尾瀬には、体長わずか2センチ、羽の長さはわずか15ミリの日本最小のトンボから、体重が最大200キロになることもあるツキノワグマまで、公園内の生息地と同じくらい多様な生き物が生息しています。

これらの生き物は、この地域の生態系において重要な役割を担っています。例えば、熊は糞に含まれる種子を介して植物がより広い範囲にわたって生育するのを助けます。訪問者による熊の生息地への侵入防止策の開発も研究が進められています。

近年の気候の変化により、公園内のシカの個体数が増加しています。これは前代未聞の事態です。シカの個体数の増加は、湿原や森の生態系を破壊する恐れがあるため、シカの頭数を制限するための施策が研究されています。

**哺乳類**

公園内には34種の哺乳類がいますが、そのほとんどはめったに訪問者の目に触れません。*ツキノワグマ（Ursus thibetanus）*は中型で主に草食性です（熊に遭遇した時の対応については下記を参照）。*カモシカ*（*Capricornis crispus*）は、偶蹄類ウシ科のヤギの仲間です。めったに見かけることがないものの人気がある動物は*オコジョ*（*okojo; Mustela erminea Nippon*）です。かわいらしく無害に見えますが、オコジョは肉食で、小さな哺乳類や鳥を捕食します。時折目にする他の哺乳類には、ウサギや小さなニホンヤマネなどがいます。

ボックス：

**熊に遭遇した時のヒント**

ツキノワグマは他の種類の熊に比べると攻撃的ではなく、人間を避けようとする傾向があります。ツキノワグマが脅威にさらされていると感じたり、突然驚かされたりすると危険な場合があります。木道に沿った所定のエリアでは、設置されている鈴を鳴らしましょう。手を打ったり話したりすることで、人間が近くにいることを熊に知らせてください。もし熊に出くわした場合は、大きな音を立てたり走ったりせず、ゆっくりと静かにその場所から離れましょう。

**鳥類**

公園内では160種以上の鳥類が報告されています。多くの渡り鳥が湿原を好む一方、森の中に棲家を作る鳥たちもいます。湿原ではホオアカ（*Emberiza fucata*）、カルガモ（*Anas poecilorhyncha*）、オオジシギ（*Gallinago hardwickii*）を見つけることができます。森にはアカゲラ（*Dendrocopos major*）、キビタキ（*Ficedula narcissina*）、その美しい歌声からかつてはジャパニーズ・ナイチンゲールと呼ばれたウグイス（*Horornis diphone*）がいます。標高が高く岩の多い地域では、イワヒバリ（*Prunella collaris*）とホシガラス（*Nucifraga caryocatactes*）が見られます。

**両生類**

公園内には沼と川の上にかかった木道からしばしば見つけることができる日本固有のヤマアカガエル（*Rana ornativentris*）やアカハライモリ（*Cynops pyrrhogaster）*など、9種の両生類が住んでいます。トウホクサンショウウオ（*Hynobius lichenatus*）のように、より見つけにくい種もいます。

**魚類**

マスに似た*イワナ*（Salvelinus）や小さなアブラハヤなど、10種の魚が尾瀬に住んでいます。焼いた*イワナ*は人気の郷土料理ですが、公園内で釣りはできません。

**昆虫類**

尾瀬の生態系は昆虫にとって理想的で、公園内の沼や川、湿原、森の至るところで多種多様な昆虫が見られます。イトトンボ（Zygoptera）、ハッチョウトンボ（*Nannophya pygmaea*）、キアゲハ（*Papilio machaon*）など、寒い地域にしか住まないトンボや、標高の高い場所を好むチョウも生息しています。